



がんばろう!東北

## 平成26年2月14日からの降雪による災害について

国土交通省東北地方整備局 企画部  
防災課長 高橋 孝男

平成25年は、7月以降低気圧や台風による豪雨により東北地方においても多数の災害が発生したところですが、年明けの2月14日からの降雪による災害について、国道48号の雪崩による被災及び対応状況を中心にご紹介します。

2月14日から日本の南海上を発達しながら東北東に進んできた低気圧は、15日には房総半島を通過し16日は三陸沖に達し、低気圧が接近した14日から16日にかけては、内陸部を中心に寒気が入っていたため太平洋側の広い範囲で大雪となりました。(仙台管区気象台発表「宮城県災害時気象資料」による)

国道48号では、2月15日に仙台市青葉区新川で70センチと観測史上1位の積雪深を記録し、同日9時55分頃に関山トンネルの宮城県側坑口手前数百メートル付近の数カ所で雪崩が発生しました。仙台河川国道事務所と山形河川国道事務所では、10時10分から26.8kp(仙台市青葉区チェーン着脱場)から47.4kp(東根市関山観音寺交差点)までの20.6kmについて全面通行止めを実施し、安否確認調査、専門家による現地状況の確認を開始しました。前後で雪崩が発生し、車両が立ち往生しているため、ドライバーに最寄りの市民センター等へ一時待避していただき、翌日16日から17日にかけて、除雪作業、孤立車両のドライバーへの引き渡しを実施しました。途中、二次災害の恐れがあることから、作業の中断を含みながら、17日からは雪塊除去作業を開始し、二次災害防止対策に着手したところです。

18日からは雪崩柵背面の堆雪スペース確保作業、規制区間内の路面の拡幅除雪作業を実施し、19日には、専門家によるヘリコプターからの斜面上方の調査を実施しました。

その後、対策の完了及び安全が確認されるまで、通行止めを継続し、2月25日6時30分に通行止めの解除を実施し、国道47号、国道113号及び山形自動車道による広域迂回を解消しました。

なお、今回の対応では、車両の立ち往生等が発生した地域の皆様などからドライバーへの炊き出し等の支援がなされるなど、協力があつたところです。

全国的には、各地の中山間地域での孤立、また、山梨県甲府市等への高速道路・鉄道等が全て途絶し、流通が滞ったことや、群馬・安中市と長野・軽井沢町にまたがる国道18号碓氷峠では2月14日夜からの車両の立ち往生が4日目にまで及ぶなど、多大な社会的な影響をもたらし、雪害の影響の大きさと対策の重要性を改めて認識させられました。

今冬については、日本海側で豪雪となっており、今回、普段雪に慣れていない太平洋側での豪雪となったものですが、その太平洋側の豪雪のメカニズムについては、気温の低い1月後半から3月に、本州南岸を低気圧が東に進む場合（南岸低気圧）で、低気圧の中心に向かって吹き込む南からの暖かく湿った空気（暖気）と北側から流れ込む冷たい乾いた空気（寒気）がぶつかりあって、太平洋側に豪雪をもたらすケースがあるということです。（気象庁HP等より）このように、太平洋側では、冬シーズン後半において豪雪が起こりうるということを知り、備えが必要と考えられます。



国道48号雪崩発生状況



国道48号車両立ち往生状況

# 平成25年度下半期 防災エキスパート活動報告

## 平常時

平成25年11月～平成26年3月の間、延べ96名の防災エキスパートが活動を行っております。（災害時の出動はなし）

県別	活動内容	活動場所 (事務所・出張所名)	活動年月日	出勤数 (人)	備考
青 森	馬淵川危機管理演習事前説明会	青森河川国道事務所管内	平成25年11月21日	1	
	馬淵川危機管理演習	青森河川国道事務所管内	平成25年11月29日	1	
	防災エキスパート意見交換会	青森河川国道事務所管内	平成26年1月22日	3	
	防災エキスパート意見交換会	高瀬川河川事務所管内	平成26年1月29日	4	
	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年2月4日	2	
計				11	
岩 手	防災エキスパート意見交換会	岩手河川国道事務所管内	平成26年1月21日	20	
	防災エキスパート意見交換会	北上川ダム統合管理事務所 管内	平成26年2月13日	13	
	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年2月4日	2	
計				35	
宮 城	防災エキスパート意見交換会	仙台河川国道事務所管内	平成26年1月28日	6	
	防災エキスパート意見交換会	北上川下流河川事務所管内	平成26年1月31日	4	
	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年2月4日	2	
計				12	
秋 田	防災エキスパート意見交換会	秋田県ブロック (3事務所管内)	平成26年1月22日	7	
	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年2月4日	1	
計				8	
山 形	防災エキスパート意見交換会	新庄河川事務所管内	平成26年1月10日	8	
	防災エキスパート意見交換会	山形河川国道事務所管内	平成26年1月15日	9	
	防災エキスパート意見交換会	酒田河川国道事務所管内	平成26年1月20日	6	
	大規模土砂災害危機管理演習事前説明会	新庄河川事務所管内	平成26年2月12日	2	
	大規模土砂災害危機管理演習	新庄河川事務所管内	平成26年2月20日	4	
	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年2月4日	1	
計				30	



平常時

県別	活動内容	活動場所 (事務所・出張所名)	活動年月日	出勤数 (人)	備考
福島	平成25年度防災セミナー	主催:(公社)全国防災協会 場所:東京都港区	平成26年 2月 4日	(1)	※山形に同じ方→合計に含まず
			計	0	
平常時活動			合計	延べ 96	人・日



馬淵川危機管理演習 (青森 11/29)



赤川流域大規模土砂災害危機管理演習 (新庄 2/20)

## “防災エキスパート意見交換会”開催状況

各県ブロックにおいて、平成26年1月～2月の間、事務所・出張所と防災エキスパートの意見交換会<河川>が実施されました。福島を除く5県で、延べ80名の防災エキスパートが参加し、災害時対応における意見や助言等を行っております。

また、事務局では、各県の意見を集約し、今後の活動に反映させるとともに、防災エキスパートの今後のあり方について、整備局と鋭意調整を行っております。

開催ブロック (事務所名等)	開催月日	出席者数		
		整備局側	防災EP	計
新庄河川事務所	平成26年 1月10日 (金)	17名	8名	25名
山形河川国道事務所	平成26年 1月15日 (水)	25名	9名	34名
酒田河川国道事務所	平成26年 1月20日 (月)	16名	6名	22名
岩手河川国道事務所	平成26年 1月21日 (火)	18名	20名	38名
青森河川国道事務所	平成26年 1月22日 (水)	8名	3名	11名
秋田県内3事務所合同	平成26年 1月22日 (水)	25名	7名	32名
仙台河川国道事務所	平成26年 1月28日 (火)	28名	6名	34名
高瀬川河川事務所	平成26年 1月29日 (水)	8名	4名	12名
北上川下流河川事務所	平成26年 1月31日 (金)	22名	4名	26名
北上川ダム統合管理事務所	平成26年 2月13日 (木)	17名	13名	30名
合計		184名	80名	264名

※開催順に記載

## 青森県ブロック

青 森	馬淵川・防災エキスパート懇談会
<p>開催月日：平成26年 1月22日（水）</p> <p>会 場：青森河川国道事務所</p> <p>出席者：整備局側 8名 本局佐藤河川管理課長、盛谷事務所長 ほか            防災エキスパート 3名 葛西喜美雄、三浦恵一、高橋武美</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について            (2) 馬淵川の本年出水の概要            (3) 馬淵川の総合的な治水対策について            (4) 【意見交換】出動時想定問題点及び危険が想定される箇所            (5) 【意見交換】その他関連意見・職員へのアドバイス等</p>	
高瀬川	高瀬川・防災エキスパート懇談会
<p>開催月日：平成26年 1月29日（水）</p> <p>会 場：高瀬川河川事務所</p> <p>出席者：整備局側 8名 平葎水災害予報センター洪水予測専門官、            梅森事務所長 ほか            防災エキスパート 4名 葛西喜美雄、館ヶ沢正志、三浦恵一、高橋武美</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について            (2) 今年度の事業概要について            (3) 意見交換</p>	



青森河川国道事務所（1/22）



高瀬川河川事務所（1/29）

## 岩手県ブロック

岩 手	平成25年度北上川上流防災エキスパート意見交換会
<p>開催月日：平成26年 1月21日（火）</p> <p>会 場：岩手河川国道事務所</p> <p>出席者：整備局側 18名 松井水災害予報センター長、高橋事務所長 ほか            防災エキスパート 20名 井上十三夫、井上博泰、臼井加悦、遠藤好美、及川            勝幸、小笠原哲、小沢秀啓、上森合昭男、北澤利光、            倉成秀郎、佐藤篤雄、高橋利典、千葉和民、中村巖、            中村隆洋、松田敬一、吉田昭夫、米沢谷誠悦、西川            和雄、加藤武男</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について            (2) 平成25年度の出水概要及び治水効果について            (3) 【意見交換】平成25年8月9日出水での実対応について            (4) 【意見交換】災害時の対応（課題、要望、助言等）について</p>	

**北上川ダム****平成25年度北上川ダム防災エキスパート意見交換会**

- 開催月日：平成26年 2月13日（木）  
 会場：北上川ダム統合管理事務所  
 出席者：整備局側 17名 本局佐藤河川管理課長、西條事務所長 ほか  
 防災エキスパート 13名 井上博泰、臼井加悦、遠藤好美、小笠原哲、上森合昭男、北澤利光、佐藤篤雄、高橋利典、中村巖、中村隆洋、米沢谷誠悦、西川和雄、加藤武男
- 主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について  
 (2) 平成25年度の洪水対応及び治水効果について  
 (3) 8月9日洪水での御所ダム検証について  
 (4) 防災エキスパート活動状況について  
 (5) 【意見交換】災害時の対応（課題、要望、助言等）について



岩手河川国道事務所（1/21）



北上川ダム統合管理事務所（2/13）

**宮城県ブロック****仙 台****平成25年度防災エキスパート意見交換会**

- 開催月日：平成26年 1月28日（火）  
 会場：仙台河川国道事務所  
 出席者：整備局側 28名 松井水災害予報センター長、牧事務所長 ほか  
 防災エキスパート 6名 伊藤芳治、菊地良夫、信太武氏、島貫 徹、三浦國昭、大嶋武志
- 主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について  
 (2) 氾濫危険水位設定、浸水想定区域図作成等について  
 (3) 防災エキスパート、復興技術支援等の取り組みについて  
 (4) 【意見交換】東北地方太平洋沖地震時の対応について  
 (5) 【意見交換】名取川、阿武隈川において水位が上昇した際の対応（留意点）  
 (6) 【意見交換】浸透（漏水等）に対して

**北上下流****平成25年度防災エキスパート意見交換会**

- 開催月日：平成26年 1月31日（金）  
 会場：北上川下流河川事務所  
 出席者：整備局側 22名 佐藤事務所長、本局佐藤河川管理課長 ほか  
 防災エキスパート 4名 川名慶紀、菊地良夫、齋藤宗夫、大嶋武志
- 主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について  
 (2) 復旧・復興事業の進捗状況  
 (3) 防災エキスパート震災対応等の取り組みについて  
 (4) 【意見交換】H24の出水対応を振り返って  
 (5) 【意見交換】職員への助言、要望等





仙台河川国道事務所 (1/28)



北上川下流河川事務所 (1/31)

**秋田県ブロック**

<b>秋田合同</b>	<b>秋田県内防災エキスパート意見交換会</b>
<p>開催月日：平成26年 1月22日（水）</p> <p>会 場：秋田河川国道事務所</p> <p>出席者：整備局側 25名 松井水災害予報センター長、秋田河川国道事務所長、湯沢河川国道事務所副所長（河川）、能代河川国道事務所河川管理課長 ほか</p> <p>防災エキスパート 7名 鹿子沢一衛、柏谷 稔、川村公一、佐藤光夫、菅原信雄、智田竹彦、松田公策</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について                  (2) 秋田県内各事務所での出水概要について                  (3) 講話「災害時の対応案（事前・活動・事後）」                  (4) 災害対応に関する意見交換</p>	



秋田・湯沢・能代河川国道事務所合同 (1/22)

**山形県ブロック**

<b>新 庄</b>	<b>平成25年度防災エキスパート・砂防ボランティアとの意見交換会</b>
<p>開催月日：平成26年 1月10日（金）</p> <p>会 場：新庄河川事務所</p> <p>出席者：整備局側 17名 本局佐藤河川管理課長、藤沢事務所長 ほか</p> <p>防災エキスパート 8名 遠藤 敏、大類正法、鈴木好彦、高橋 登、佐藤 努、佐藤 尚、押切 守、大沼三藏</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について                  (2) 7月17日～低気圧に伴う集中豪雨による出水概要の説明                  (3) 7月豪雨対応を振り返って                  (4) 災害対応に関する職員への助言・要望</p>	

<b>山 形</b>	<b>平成25年度防災エキスパート意見交換会</b>
<p>開催月日：平成26年 1月15日（水）                  会 場：山形河川国道事務所                  出席者：整備局側 25名 松井水災害予報センター長、井上事務所長 ほか                  防災エキスパート 9名 遠藤 敏、後藤信一、佐藤 努、佐藤 尚、鈴木好彦、                  武田哲衛、宮内利夫、奥山雅晴、大沼三藏</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について                  (2) 今年度の災害対応                  (3) 防災体制                  (4) 防災エキスパート活動紹介</p>	

<b>酒 田</b>	<b>防災エキスパート意見交換会</b>
<p>開催月日：平成26年 1月20日（月）                  会 場：酒田河川国道事務所                  出席者：整備局側 16名 本局佐藤河川管理課長、高橋事務所長 ほか                  防災エキスパート 6名 大類雄一、遠藤 敏、佐藤 努、佐藤 尚、高橋 登、                  大沼三藏</p> <p>主な内容：(1) 東北管内の出水概要等について                  (2) 酒田河川国道事務所のH25出水概要                  (3) 出水等災害対応に関する意見交換</p>	



新庄河川事務所 (1/10)



山形河川国道事務所 (1/15)



酒田河川国道事務所 (1/20)



## ～ 震災から4年目を迎えるにあたり ～

物理学者の寺田寅彦氏は、昭和8年（1933年）に発生した昭和三陸地震津波の直後に書いたエッセイ『津波と人間』で、明治29年（1896年）にも同じ地域に大津波が襲っていたことから、「困ったことには“自然”は過去の習慣で忠実である。地震や津波は新思想の流行等に委細かまわず、頑固に、保守的に執念深くやって来る」とし、「こんなに度々繰り返される自然現象ならば、当該地方の住民は、とうの昔に何かしら相当な対策を考えてこれに備え、災害を未然に防ぐことが出来ていてもよさそうに思われる。これは、この際誰しもそう思うことであろうが、それを実際はなかなかそうならないというのがこの人間界の人間的自然現象であるように見える」と述べています。そして、災害を防ぐにためは、「人間がもう少し過去の記録を忘れないように努力するより外はない」とともに、「日本国民のこれら災害に関する科学知識の水準をずっと高めることが出来れば、その時に初めて天災の予防が可能になる」として防災教育の有効性を記しております。

このように、災害対策は、実際に発生した災害状況とそれに対して実際に行った対応を検証し、それらから導き出される教訓を踏まえ、必要な見直しを速やかに行うという不断の努力の上に成り立つものであります。阪神・淡路大震災から地震動に関する教訓を得て、我が国では、建築物や土木構造物等の耐震化を積極的に推進していること等、被災の経験に基づき法制度を含めた災害対策を強化してきているといえます。こうしたことから、我が国は世界の中でも自然災害が発生しやすい国土であるものの、相対的に被害は少ないという面も見られてきました。これは、今日まで公助・共助・自助を一体的に取り組んできた結果といえます。

しかしながら、このような取り組みが行われていた中であって、東日本大震災が発生し、東北地方の太平洋沿岸地域を中心に大きな災禍がもたらされました。東日本大震災においては、耐震補強による土木構造物の被害の減少等、これまでの教訓が成果として発揮された一方で、多数の被害者を出したこと、津波により建物やライフライン施設等に壊滅的な被害が発生したこと、極めて広域にわたって様々な被害や事象が発生したこと等、今までの災害対

策では十分対応できていないことが明らかになりました。また、地すべり、斜面崩壊、液状化、長周期地震等の地震の揺れに起因した被害、影響も大きかったといえます。

被害を最小化する“減災”に取り組み、大規模災害にも負けない“安全・安心の日本”を構築して、次世代に継承することは、我々の世代が果たさなければならない歴史的な使命であるといえます。

我々は、東日本大震災の災禍を再び繰り返かえさないように、東日本大震災から教訓を導き出し、今後の災害対策の改善・充実を図るとともに、その得られた教訓を忘れないように不断の努力を尽くしていかねばなりません。

その際、災害への対応にあたっては、想定外があってはならず、東日本大震災による被害状況及び対応を踏まえた想像力を働かせ、より多くの教訓を導き出すことも必要であります。

災害は地域一帯としての取り組みが不可欠であります。そのためには、全国的な防災エキスパートネットワークの重要性が高まってきておりますので、引き続きよろしくご支援の程お願い申し上げます。

— 東日本大震災の教訓から —

防災エキスパート事務局

(東北地域づくり協会 地域事業部)

## 編集 後記

東日本大震災から4年目を迎え、東北の被災地における復興が加速化する一方で、関東地方から九州地方の沿岸部では、いつ発生してもおかしくない“首都直下地震”や“南海トラフ巨大地震”への備えが活発化しており、行政のみならず大学や地域においても防災・減災意識を高く持ち、様々な取り組みが行われています。

その中で、他の地方整備局の防災エキスパートも、東日本大震災での対応を教訓に大規模災害に備えて鋭意活動を行っているところです。

事務局では、東日本大震災での経験を全国へ発信する活動をこれからも継続して行って参りますので、来年度も引き続きまして皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

防災エキスパート事務局

(東北地域づくり協会 地域事業部 中村・菅原)

TEL : 022-268-4711 / FAX : 022-211-9534

E-mail : bousai@kyokai.or.jp